

# 事業完了報告書（実行団体）

事業名:	長崎発信型在住外国人支援プロジェクト
資金分配団体名:	一般財団法人未来基金ながさき
実行団体名:	NPO法人Treasures of The Planet
実施時期:	2020年11月～2021年10月
事業対象地域:	長崎県
事業対象者:	長崎市在住外国人

Version 3.2  
目付: 2021年11月xx日

## I. 事業概要

事業実施概要	長崎市在住外国人を対象にインターネット・アンケートや面談インタビューを実施し、新型コロナウイルス感染症の広がりにより、長崎市在住外国人が具体的にどのような問題に直面しているかの「生の声」を集める。アンケート結果と問題解決方法をまとめた多言語対応ウェブサイトを作成し、運営・管理を行う。ウェブサイトでは新型コロナウイルス感染症に関連する医療施設や福祉関係の情報を多言語で表示し、さらに在住外国人が困っていることや読めない書類などをメールやアプリで受け取り回答する「コトバ助っ人」としての役割も果たし、外国人の情報へのアクセスの格差の是正を目指す。
--------	--

## II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>課題設定及び事業設計に関しては概ね計画通りに実施できたと思われる。</p> <p>多数国・地域からの留学生の協力をもって、在住外国人の視点に寄り添った質の高いアンケート調査を行うことができ、当初目標の100名を大幅に超える360名からのアンケート調査への協力を得ることができた。（目標達成率：360%）</p> <p>また、長崎県庁、市役所、長崎市生活支援相談センター、長崎県国際交流協会などにUNIVERSALAIID.JPの活動を周知し、情報交換や連携を取ることができた。さらに、気象庁とも連携をとり、新型コロナウイルス感染症関連情報だけでなく、防災関係の情報もウェブサイト上に多言語で掲載することができた。</p> <p>しかしながら、技能実習生は想定よりも閉鎖的な環境で生活しており、他の在住外国人と比べ著しく外部との接触が少ないことが露見した。そのため、今後はこれら技能実習生への支援の在り方や情報提供の在り方等を調査・模索していく必要性を強く感じている。技能実習生へのアンケート調査協力が期待できなくなったため、在住外国人への呼びかけを数回にわたり行うことで、本ウェブサイトを作成するために必要な調査回答数を得る努力を行った。</p>
-------------------	--

## III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
外国人・外国にルーツを持つ人	相談先の不足	1. 情報収集：アンケート調査の実施（対象：在住外国人100人） 長崎市在住外国人からは新型コロナウイルス感染症の広がりを受けて生活がどのように変わったか、日常生活で困っている事や改善してほしいことなどについてアンケート調査し、長崎市在住外国人が抱えている問題を把握する。	1. 情報収集：長崎市在住外国人から、生活変化アンケートの調査（新型コロナウイルス感染症の広がりにより、生活がどのように変わったか、日常生活で困っている事や改善してほしいことなど）を実施し、長崎市在住外国人が抱えている問題を把握する。	1. 目標回答数100件、アンケート作成・調査実施	2020年11-12月アンケート作成 2021年1-3月アンケート調査実施 約360件の回答数を得る。	(1)アンケート調査作成について 在住外国人の視点に寄り添ったアンケート調査を行うために、調査票作成時から、長崎大学グローバルヘルス研究科の学生の協力を得て、設問内容・質問の表現・回答方法など詳細にかかる議論を重ねた。その結果、質の高いアンケートの作成・調査を実施できた。回答者数も目標の100名を超える360名となり、目標の360%を達成する好要因であったと思われる。  (2)調査の分析及び考察 ・アンケート調査を通じて、在住外国人がコロナ禍で抱える課題は雇用（学業・研究）継続への不安・収入の安定化・心的ストレス及び「巣ごもりによる」生活習慣病への不安など日本人とは大差ないが、最新情報への入手方法や隔離・検査方法など公的サポート・行動に係る情報が十分に届いていないことが在住外国人が抱える特有の課題であり、自身の生活や情報収集が困難なことに加え、母国にいる家族を心配する在住外国人が多いこと、そして、単身で滞在している在住外国人は特にストレスを抱えていることも明らかとなった。また、他言語対応ウェブサイトの多くは、日本人の視点からつくられており、在住外国人にはわかりにくいものが多いことが分かった。「在住外国人」という一括りで支援や対応されるケースが多いが、在留資格や形態（単身か家族同居か等）により、課題やニーズが異なると明確になったので、今後は他の支援団体や福祉団体等との連携を深め情報交換や協働を通じて、多様な分野で外国人も対応できる・利用できるサービス提供のための環境を整備する必要がある。
外国人・外国にルーツを持つ人	相談先の不足	2. 情報提供：長崎市在住外国人が困っている事や知りたい情報が多言語で紹介されているウェブサイトを作成させる。	2. 情報提供：長崎市在住外国人が困っている事や知りたい情報が多言語で紹介されているウェブサイトを作成させる。	2. ホームページ公開	2021年7月ホームページ完成 2021年8月から、ホームページ公開、PR開始	(1)作成したウェブサイトについて 日本の多言語対応ウェブサイトのほとんどが、リンクしていくと言語が混乱し、使いにくく、またPDFファイルによる情報提供をしているところが多く、スマホだけでは読み取りにくいことが、アンケート調査により明らかとなった。このアンケートを元に、外国人の視点を取り入れた分かりやすいウェブサイトをデザインするよう心がけた。 ウェブサイト公開後、在住外国人に改めて見ていただいた際に、とても見やすいウェブサイトであると複数のコメント得ることが出来たことは、アンケートの作成に多様な人材（日本人・外国人）の目線を取り入れたことが大きいと思われる。
外国人・外国にルーツを持つ人	その他	3. 広報：ウェブサイトを利用する在住外国人数を広げ、在住外国人をサポートするサイトとして普及させる。	3. 広報：ウェブサイトの利用率、利用者の声、ウェブサイトへのレポート訪問率	3. 年間利用者数2000名（長崎市在住外国人の約70%）、利用者から役立つ情報が得られたという声が挙がる、ウェブサイトへのレポート率3割	2021年8月1日から10月31日までのUNIVERSALAIID.JP 利用者数609人（内初利用者数582人）リピーター18.7% 観覧ページ数4,467	(1)長崎県内の団体において、在住外国人への支援を実施する数少ない民間団体として注目され、西日本新聞、長崎新聞に紹介記事が掲載され、インドネシアの大手ニュースウェブサイトにも記事が掲載されたことで、UNIVERSALAIID.JPの知名度が高くなった。 (2)気象庁の防災情報や市役所のゴミの出し方など、新型コロナウイルス感染症以外の情報も掲載し、ネパール人やベトナム人から分かりやすいという評価をもらうことができた。日本人が当たり前と感じる日常生活を発信する必要性を、改めて認識した。  アンケート調査が目標の360%と予想を遥かに上回る結果となったのは、多様な文化・言語・宗教を持つ留学生が「在住外国人」視点のもとで設問を考え、翻訳を確認し、各自の口コミなどによる情報拡散など、留学生の積極的な協力によるところが大きい。  国内外のマスメディアが本ウェブサイトを取り上げていただいたことが更なる普及に繋がると感じているので、今後も地道な口コミ・マスメディア等への情報提供などを積極的に行いつつ、寄せられてくる相談には丁寧に対応していくなど本ウェブサイトの情報を更新し続けていき利用者の情報で作られる利用者のためのサイトと発展していけるよう今後も協力者と共に努力していく必要がある。

## IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）\*

事業実施以降に目標とする状況	1年間、本ウェブサイトを利用した在住外国人にSNSなどを使って彼らのネットワークにウェブサイト情報を拡散してもらい、より多くの在住外国人が本ウェブサイトを利用できるようにする。新型コロナウイルス感染症問題終息後は、在住外国人との関わりが深い日本人たちから、在住外国人との意思疎通やトラブルなどの意見を聞き、在住外国人と地域住民とのコミュニケーションをサポートするサイトに発展させる。本ウェブサイトは、他県や他の団体からもアクセスが可能であるため、長崎で行われている地域活動のPR及び在住外国人支援の在り方のモデルとして、日本中に広がる活動にすることを旨とする。また、現在、長崎地域にて生活する在住外国人が将来的に帰国した際に苦境時でも住みよい町として長崎をPRしてくれることで今後の外国人の流入につながることも期待し、未来の地域づくりの一助となることも目指す。
考察等	本事業の計画当初の主たる活動内容は、多言語のウェブサイト作成のためのネットワークづくり、調査及び同サイトの公開である。今後は本事業で築いたネットワークや情報を基盤にして、今後も同ウェブサイトへのアクセス状況や相談内容をモニタリングしていくことで、受益者である在住外国人が日常生活で抱える課題を明確化していき、民間ボランティア団体としてできることを一つ一つ対応していく。また、モニタリングを通じて「透明化」される内容を受けて、本ウェブサイト作成時に形成した民・官のネットワークとの協働で、在住外国人の支援に取り組んでいくことが可能となった。ウェブサイトが公開されたことにより、「V.活動⑥」に示すとおり、相談先が判らない・相談することが恥ずかしいと感じていた在住外国人の中で、少しずつではあるが、困ったときに相談できる場所がある、という認識が広まってきつつある。この認識を定着させていくことで地域での支援の輪を広げていき、これら在住外国人にもアイディアを受けながら同ウェブサイトを継続的に発展させていきたい。

## V. 活動

活動	進捗	概要
1. 本プロジェクトの趣旨（新型コロナウィルス感染症に関する情報を多国語で紹介し在住外国人の情報へのアクセスの格差を是正し、外国人が長崎県で生活する上で困っている事へのサポートを行うウェブサイト制作）をまとめたチラシ作成。	計画通り	チラシ4000部作成し、長崎市内の学校、企業、レストランなど約150箇所に1部ずつ郵送した。その後電話して外国人が多く集まる日本語学校、人材派遣会社、多文化共生支援団体等には、30-300枚追加で郵送および持参した。
2. 新型コロナウィルス感染症の広がりにより、在住外国人の生活がどのように変わったか、彼らが日常生活で困っている事、改善してほしいことなどの質問事項を記載したアンケートを作成。	計画通り	長崎大学熱帯医学グローバルヘルス研究科の学生たちとアンケート項目を検討し、多国語でアンケートを作成した。アンケート項目は長崎大学の研究者たちと何度も検討して作成し、多国語翻訳後は、各言語の翻訳担当者以外が翻訳文を英訳するというバックトランスレーションをおこない、より正確な翻訳文を作成した。
3. 1,2を記載したウェブサイト作成。	計画通り	「2」のアンケート実施のため、アンケート調査に広く使われているオンライン調査サービスSurveyMonkeyに言語別にリンクするウェブサイトを作成した。 下記URL参照 <a href="https://universalaid.jp/">https://universalaid.jp/</a>
4. オンラインサーベイや訪問インタビューによるアンケート調査の実施。オンラインサーベイへの参加については、留学生や企業等に周知協力を依頼する予定。	計画通り	チラシ配布や、現地訪問などにより、目標数100を上回る360の回答を得ることができた。 新型コロナウイルス感染症拡大により、対面によるインタビュー活動は大規模にできなかったが、オンラインアンケートより深掘りした意見や情報を収集することが出来た。
5. 4の調査結果をもとに、外国人居住者が必要とする情報や困っている事などをまとめる。	計画通り	調査結果をもとに、在住外国人が困っていることを分析し、ウェブページに掲載する内容を検討した。 アンケート結果の分析結果は、英語・日本語版の2種類をUNIVERSAL.AID.JPのウェブページにPDFファイルとして公開した。 また、既存のウェブサイトで、在住外国人が必要とする情報が掲載されているウェブサイトや資料をピックアップする。（WHO、みんなの外国人ネットワーク、出入国在留管理庁、長崎市役所、長崎県国際交流協会、長崎市生活支援センターなど） 報告書URL（日本語）： <a href="https://universalaid.jp/wp-content/uploads/2021/10/COVID-19_Nagasaki_Foreigner_Survey_Result_V051521-ja.pdf">https://universalaid.jp/wp-content/uploads/2021/10/COVID-19_Nagasaki_Foreigner_Survey_Result_V051521-ja.pdf</a> 報告書URL（英語）： <a href="https://universalaid.jp/wp-content/uploads/2021/05/COVID-19_Nagasaki_Foreigner_Survey_Result_V051521.pdf">https://universalaid.jp/wp-content/uploads/2021/05/COVID-19_Nagasaki_Foreigner_Survey_Result_V051521.pdf</a>
6. 5のデータをもとに、特にコロナウィルス感染症に関する医療・福祉関係など緊急性の高いものから優先的に英訳し、その英訳を多国語翻訳（中国語、ベトナム語、韓国語、フィリピン語、ネパール語など）して、それらを使いやすくまとめたウェブサイト制作する。ウェブサイトでは、実際に困っている人たちからの質問や理解できない書類などをメールやアプリで受け取り、翻訳その他の回答をサイト上にアップするサービスを行う。	ほぼ計画通り	行政機関等のウェブページ内容の掲載及び多国語翻訳の許可を得て、必要な情報をUNIVERSAL.AID.JPに掲載することができた。多機関型地域包括支援センター（長崎市から委託を受け、全年齢を対象とした複合する課題の世帯又は個人を支援する機関）や、長崎市在住コンゴ人家族などから支援の問い合わせが入った。
7. ウェブサイトの紹介、使い方をまとめたチラシを作成し、情報を必要とする人たちに配布する。特に外国人居住者が多い地域（学校、会社その他）は、現地訪問してウェブサイトの利用法などを伝える。	計画通り	チラシ4000部作成し、長崎市内の学校、企業、レストランなどに配布した。アンケートチラシを多く送った学校、人材派遣会社、多文化共生支援団体には30-300部郵送した。さらに、実際に在住外国人に会って、UNIVERSAL.AID.JPを紹介し、意見を聞いた。とても使いやすく分かりやすいウェブサイトだという意見が多かった。

## VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.行政機関などが公開している多国語対応のホームページの内容は、リンクしていくと言語が混乱したり、PDFファイルを掲載しているところが多く、スマホだけでは読み取りにくいことがわかった。そこでPDFファイルの要点を英訳し、さらに多国語翻訳してスマホで簡単に読めるようにした。</li> <li>2.既存の多国語対応ホームページの問題点を解決し、さらに親しみやすいイラストや使いやすいインターフェースデザインを使い、在住外国人の視点から分かりやすいウェブサイトデザインした。</li> <li>3.経済的不安をかかえる在住外国人に長崎市社会福祉協議会（生活支援相談センター）の支援活動を伝え、多くの在住外国人から高い評価を得る事ができた。</li> <li>4.新型コロナ感染症関連の情報だけでなく、気象庁と連携して防災情報サイト「キキクル」の、在住外国人への認知度を高める事ができた。</li> <li>5.長崎県国際交流協会が2021年10月に開催した第23回ながさき国際協力・交流フェスティバル（オンライン開催）に参加し、UNIVERSAL.AID.JPだけでなくNPO法人Treasures of The Planetの活動内容をPRする事ができた。</li> <li>6.長崎新聞、西日本新聞がUNIVERSAL.AID.JPの記事として掲載し、インドネシアの大手ニュースウェブサイトからもインタビューを受け、インドネシア語の記事が掲載されるなど、多くの人たちにUNIVERSAL.AID.JPの活動を周知することができた。</li> </ol>
---------------------	---

## VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在住外国人も個人差があり、困っていても誰にも相談できずにいる人たちもいるが、専門的なホームページ作りにより、困り事を解決する手段を創出できことで、質の高い情報収集の選択肢が増えたと言える。今後は、そのような在住外国人がメールなどで相談できるような安心・信頼できるウェブサイトが発展していきたい。</li> <li>2. 在住外国人の中で、技能実習生は、外部の人との接触、外部の情報に触れることが出来ない等、過酷な状況に置かれているケースもあり、特別な存在である事がわかった。今後、どうすれば彼らを支援することができるか、長崎大学の研究生たちと一緒に調査をしていく。</li> <li>3. 新型コロナウィルス感染対策のため、WEBによる情報収集の比率が高く、対面による情報収集を可能な限り控えていた。今後の感染状況にも左右されるが、在住外国人と直接触れ合う機会を多く作り、一人ひとりの問題に寄り添えるサービスを行えるようにしたい。</li> </ol>
-----------	--

## VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
長崎市社会福祉協議会 長崎市生活支援相談センター	新型コロナ感染症拡散で経済的に困窮している人たちへの助成制度などを多国語で紹介。今後も新しい情報を更新していく。
長崎県国際交流協会	病院の使い方など、国際交流協会が配布している冊子の一部を多国語で紹介。10月にオンライン開催された国際交流イベントにも参加。今後とも連携を深めていく。
長崎市秘書広報国際課	長崎市役所のホームページや刊行物の新型コロナ感染症関連情報や、生活一般情報を多国語で紹介。長崎新聞記事として紹介され、多くの外国人に周知できた。
長崎県文化観光国際部国際課平和推進・国際協力班	UNIVERSAL.AID.JPが、多文化共生に係る取組のうち、特にコロナ禍における在住外国人に係る様々な課題を解決するために実施された事例として、九州・山口各県のホームページ上の九州・山口地域における多文化共生に係る事例集で紹介されることになった。
長崎地方気象台	気象庁の防災サイト「キキクル」の多国語サイトとリンク。在住外国人の気象庁のサービスへの認知度を高める。

## IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。(精算金額と一致させる必要はありません)

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	4,816,000	4,813,376	99.9%
	管理的経費	184,000	186,912	101.6%
合計		5,000,000	5,000,288	100.0%
補足説明				

## X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	1.ぶらほっとVol.22 (2021年7月) NPO団体紹介と休眠預金の助成概要。 ※下記URL参照 <a href="https://n-volunpo.net/volunpo/uploads/21071613410777.pdf">https://n-volunpo.net/volunpo/uploads/21071613410777.pdf</a> 2.長崎新聞 (2021年8月17日) 外国人支援多言語サイトとして、QRコードを掲載。 3.西日本新聞(2021年9月16日) NPOと大学生が在住外国人の新型コロナウイルス感染症拡散後の不安を和らげるために制作した多言語対応ポータルサイトとして UNIVERSAL AID.JPを紹介。 4.長崎新聞(2021年9月28日) アンケートを基に外国人の視線から11ヶ国語で日本のお生活情報を発信するサイトとしてUNIVERSAL AID.JPを紹介。 5. インドネシアの大手新聞紙Tribunnewsに掲載 ※2,3,4,5:下記URL参照 <a href="https://universalaid.jp/media-coverage/">https://universalaid.jp/media-coverage/</a>
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	1. アンケート調査依頼用チラシ (2021年1月) 長崎市内の外国人が多い大学、専門学校、企業、団体、レストラン、教会などに配布。4000部 2. UNIVERSAL AID.JP PR用チラシ(2021年8月) 長崎市内の外国人が多い大学、専門学校、企業、団体、レストラン、教会などに配布。4000部 下記URL参照 <a href="https://universalaid.jp/wp-content/uploads/2021/01/covid_survey_flyer_01_no_bleed-1.pdf">https://universalaid.jp/wp-content/uploads/2021/01/covid_survey_flyer_01_no_bleed-1.pdf</a>
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例)	1. UNIVERSAL AID.JP ウェブサイトに掲載。 2. 事業費を使って制作したチラシ (2種類) に印刷。 3. 2021年10月長崎県国際交流協会で開催された第23回長崎国際協力・交流フェスティバルで紹介するNPO活動内容紹介ビデオに掲載。 <a href="https://www.facebook.com/nia.nagasaki/photos/pcb.4654095211317293/4654093851317429/?type=3&amp;theater">https://www.facebook.com/nia.nagasaki/photos/pcb.4654095211317293/4654093851317429/?type=3&amp;theater</a> ※動画はイベント終了のため非公開
4.報告書等	アンケート調査結果 (英文・日本語文) 報告書URL (日本語) : <a href="https://universalaid.jp/wp-content/uploads/2021/10/COVID-19_Nagasaki_Foreigner_Survey_Result_V051521-ja.pdf">https://universalaid.jp/wp-content/uploads/2021/10/COVID-19_Nagasaki_Foreigner_Survey_Result_V051521-ja.pdf</a> 報告書URL (英語) : <a href="https://universalaid.jp/wp-content/uploads/2021/05/COVID-19_Nagasaki_Foreigner_Survey_Result_V051521.pdf">https://universalaid.jp/wp-content/uploads/2021/05/COVID-19_Nagasaki_Foreigner_Survey_Result_V051521.pdf</a>

## XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
※規程類: 定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)		
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査 <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	団体の監事による監査を実施し、監査報告書の提出を受けた
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	